

幼 兒 の 教 育

昭 和 三 十 八 年 九 月

補 心

時局下、萬事緊縮であり、節約であり、缺乏にも耐えなければならぬこころ、幼稚園に於ても同様である。つこめて物を貴重し、無駄を省く以上、必要も亦惜しまなければならぬ秋である。物による教育さもいはれて、物の力によるこころの多い幼児教育が、物を用ふるに心しなければならぬこころが極めて多い。當然の注意である。

しかも、それを以て、教育そのものへの削減となり、低下ならせはならない。物が足りないからこころいつて、教育まで、その足りないに委ねてはならない。そこに平生以上の工夫さ、利用さを以て、その足らざるを補はなければならない。すなはち、物の缺乏を、頭さ手さで、知慧さまめやかささで補ふのである。物の點で消極的なところがあつても、教育は、いつでも積極的でなければならぬ。補ふ心を以て、いつも以上積極的でなければならない。(倉橋惣三)